学校法人行吉学園

第１次中期目標・中期計画最終報告書

2019－2023

2024 年 11 月

学校法人　行吉学園

１．学校法人行吉学園の概要・理念

（１）基本情報

法人の名称	学校法人行吉学園（がっこうほうじんゆきよしがくえん）
主たる事務所	兵庫県神戸市中央区港島中町四丁目７番２号
	代表電話番号　078（303）4700
	ホームページ　https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/

（２）学校法人行吉学園 建学の精神・教育綱領

建学の精神

本学園の教育は 民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成するにある。そのためには 人格の完成をめざし平和的な国家および社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたっとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成に力をつくすにある。

教育綱領

・学術の研究を通して、人生社会に対する広い視野と深い洞察とを身につけ、識見高く、心情豊かな女性を育てる。
・個性の伸長をはかり、社会に貢献しうる人材を育てる。
・勤労を愛し、義務と責任を重んじ、自律的に行動する態度を養う。
・宗教的情操を培い、謙虚にして、愛情深く、よく苦難に耐え、常に信念に生きる女性を育てる。
・明朗にして礼節あり、健康にして柔軟な心身の持ち主となり、よく世代を導きうる女性を育てる。

（３）神戸女子大学・神戸女子短期大学の教育目標

神戸女子大学・神戸女子短期大学は、建学の精神に基づき、自立心に富み、対話力と創造性にすぐれ、人類社会の発展に貢献する女性を育成しています。

自立心
社会において、独立した責任ある人間として行動できる、自立心をもった女性を育てる。

対話力
相手の心をよく理解し、自分の意志をしっかりと伝える能力をもった、対話力にすぐれた女性を育てる。

創造性
自分の力で発想し、自らの力で問題を解決することができる、創造的な思考能力のある女性を育てる。

２．学校法人行吉学園中期目標(2019-2023)

◆　基本目標

大学及び短期大学は建学の精神に則り、より良い女子教育を追求し、教育の質の実績において兵庫県下で一番の女子大学になるとともに、地域における各分野の教育研究の中核となることを目指す。定員の規模は大学・短期大学を合わせた総数で現状以上とするとともに、短期大学は大学の学部化も視野に大・短合同の運営を進める。

大学は、教育研究上の特長を明確にし、その内容・実績を社会に示すことで引き続き入試難易度の向上を目指し、短期大学は、今後の社会が短期大学に求める方向性を見極めつつ、学生の確保を目指す。

◆　目標期間

2019 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日までの 5 年間

◆　教育・研究等に関する目標

Ⅰ　教育に関する目標

１　自立心・対話力・創造性の向上に関する目標

・　建学の精神を具現化し、本学が現代の学生に培う能力としている「自立心・対話力・創造性」について、学生がどれだけ身につけられたか検証し、改善につなげる仕組みを整備する。また、「自立心・対話力・創造性」と時代及び社会が求める学生の能力に乖離がないか不断の見直しを行う。

２　教育内容に関する目標（各学科、研究科等）

・　各学科、研究科等において、教育研究上の目的を実現するための数値目標を設定したうえで達成状況を検証し、次年度の改善につなげるシステムを構築する。

３　教育内容に関する目標（全学共通教育部・教養教育委員会）

・　学科を問わず本学を卒業した学生が全員身につけておくべき能力を明確化する。
その能力を確実に養成するカリキュラムを検討し、教養科目として整備することで本学の特長とする。

４　教育課程に関する目標

・　授業科目のナンバリングにより、学生が学びの体系を理解したうえで学習が進められる教育課程を展開する。
学生の学習時間の確保及び教室等の施設の有効活用の観点から、カリキュラムのスリム化をはかるとともに CAP 制の厳格化を進める。
GPA の精度を高め、学生指導等への活用をはかる。

５　教育方法に関する目標

・　学生が授業を通して必要な能力を確実に身につけることができるよう授業内容の改善及び教育効果の高い教授方法の普及をはかる。

６　国際化に関する目標

・　人材及び情報の国際的移動の活性化、異文化交流の進行など社会のグローバル化に対応し、国際都市神戸に位置する大学として、広く世界で活躍できる人材を養成する。

Ⅱ　研究に関する目標

１　教員の研究に関する目標

・　教育の裏付けとなる研究の業績等について、毎年職位に見合う蓄積がはかれる制度を構築する。

２　学生の研究に関する目標

・　学生が学問を通じて、研究的視点や論理的思考などのアカデミックスキルを養えるようゼミ等での研究・探究活動の活性化をはかる。

Ⅲ　社会貢献に関する目標

１　社会貢献に関する目標

・　優秀な人材を社会に輩出するために、地域を教育・研究のフィールドとし、その成果を地域に還元する。

Ⅳ　学生の進路に関する目標

１　進路支援に関する目標

・　学生が大学での学びを活かして自らの人生を切り拓いていけるよう就職･進学を支援する。

２　専門就職に関する目標

・　本学の伝統である実学教育を活かした高度な専門職業人としての就職を支援する。

３　優良企業就職に関する目標

・　一般企業への就職を希望する学生の優良企業への就職を支援する。

４　公務員就職に関する目標

・　公務員（一般）就職者数を増加させ、本学の特長とする。特に地方での就職を強化する。

５　Ｕターン就職に関する目標

・　地方出身者のＵターン希望を確実に叶え、地方から進学しやすい大学として特長を打ち出す。

Ⅴ　学生支援に関する目標

１　学生満足度・帰属意識に関する目標

・　学生の満足度、帰属意識を詳細に把握・分析し、改善につなげる仕組みを構築する。

２　経済的支援に関する目標

・　保証人の世帯所得の低下及び奨学金利用学生の増加が進行していることから、学生の経済的負担の更なる軽減をはかるための制度や仕組みを導入する。

Ⅵ　施設・設備に関する目標

１　施設設備に関する目標

・　学生が安心して快適に勉学に励むことのできる施設･設備等の教育環境を整備する。

◆管理運営体制に関する目標

Ⅶ　入試広報に関する目標

１　入試広報に関する目標

18 歳人口が減少する環境においても、志願者の増加を目指した取組を実施する。

Ⅷ　幼稚園に関する目標

１　幼稚園に関する目標

・　大学附属実習園として、園児数を確保しつつ、就学前教育制度の変革に適応する。

Ⅸ　組織に関する目標

１　定員充足に関する目標

・　入学定員を充足できない学科等について、未充足を解決するための手順を定め、早期の対策を講じる。

２　大学・短大一体的運用に関する目標

・　学園として一層の総合力を発揮するために、大学・短期大学の一体的運用を進める。

Ⅹ　財政に関する目標

１　財政に関する目標

・　18 歳人口の減少に伴い激化する学生獲得競争に備え、必要な時期に必要な投資が行えるよう財務体質の健全化をはかる。

３ 学校法人行吉学園中期計画最終報告概要（2019－2023）

第１次中期計画では、教育、研究、社会貢献、学生の進路、学生支援、施設・設備、入試広報、幼稚園、組織、財政に関する 10 の目標の下、実行計画を策定し、目標達成に向けた取り組みを進めた。一部新型コロナウイルスの影響等により実行計画の見直しおよび新たな計画を策定した項目もある。達成状況において課題がある項目のうち、継続して取組みを進める方針となったものについては、第 2 次中期目標・中期計画において引き続き達成に向けて取り組んでいく。各計画についての主な達成状況を以下に示す。

Ⅰ 教育に関する目標を達成するための計画

【Ⅰ－１】 自立心・対話力・創造性の向上に関する目標を達成するための計画

自立心・対話力・創造性について、到達度調査の改善をはかり能力獲得の測定ツールとして確立し、各学科等において３つのポリシーに沿った学生の能力の伸長が実現できているか検証を行う。また卒業生アンケート等により、獲得した能力と社会で求められている能力に乖離がないか検証を行う。

（達成状況）

・大学においては、自立心・対話力・創造性を検証可能な指標の開発は、早々に達成することができた。今後は、モニタリングの結果をより一層点検・評価および改善に活かしていくことが課題である。短大においても、測定ツールとして確立され、高い回答率で実施している。

・卒業生アンケートを実施し、自立心・対話力・創造性が象徴する能力等の社会生活における有用度や、能力等と生活充実度等との相関関係等の検証を行い、調査結果はデータサイエンス関連カリキュラムの整備や学内施設の整備等、各種改善施策の根拠資料として活用された。学科レベルでの調査結果の活用については、オープンキャンパスでの資料作成（英米）、学科内での点検・評価での活用（看護）等の事例が見られたが、少数にとどまっており、課題が残った。

【Ⅰ－２】教育内容に関する目標(各学科、研究科等)を達成するための計画

各学科、研究科等において、ディプロマポリシーに掲げる能力が身についているか検証するための指標を開発したうえで目標を設定し、目標達成に向けたカリキュラムの改編など各種施策を実行する。

（達成状況）

［日本語日本文学科］

・「日本語理解」に関する評価指標として新たに卒業論文の評価指標を設定した。

・日本語運用能力等の向上に向けた授業内容の工夫や、課外活動への取組み推奨など、学科の学びの特長を伸ばすための各種取組みを着実に進め、成果を出している。

・キャリア意識の涵養強化に向けた取り組みについても、教職研鑽会、内定者報告会の開催、ゼミ毎の進路状況の把握と支援を着実に行っている。

［英語英米文学科］

・英語学・英米文学理解度に関する指標については、卒業論文評価のルーブリックス導入、優れたレポートの表彰、スピーチコンテストでの評価軸導入など複数の指標を開発し、より多くの機会での測定を可能にした。

・学生の希望や時代の要請に応えるために、必要と思われるカリキュラム改革を毎年のように行ってきた。

・TOEIC 点数アップのための集中講座開講によって、どのクラスでも 100 点程度の上昇がみられた。また、4 年次の選択科目として、Advanced TOEIC クラスが実現した。

・JAL との産学連携クラスを開講するとともに、CA による相談デスクも活発に行うことができた。

［国際教養学科］

・英語の授業については、TOEIC の点数をもとに少人数のクラス分けが可能となり、きめ細やかな指導が実現した。

・中国語及び朝鮮語のクラスについては、少人数制を実施し、学習効果が上がった。

・学生の研究活性化のために、複数ゼミの合同発表会を実施し、形式を従来の口頭試問からポスタープレゼンテーションに変更した。主査及び副査の質疑応答の評価に加え、3 回生も質疑応答を行った。

・新型コロナの影響で留学は中断したが、オンライン交流を発展させることができた。

・新型コロナは終息したものの、今度は円安及び国際情勢により、複数回に渡って留学に参加することは難しい状況になっている。短期間のプログラムを開発することに至っている。また、受入れ留学生数を増やすことも検討する必要もある。

［史学科］

・歴史についての基礎知識や基礎技能を充実させ, 伝統的な歴史学の基本原則や学問作法を堅持しつつ、表現力、コミュニケーション能力の向上をはかるため、1 年次に歴史学の基礎科目導入や、全セメスターでの演習の必修化などのカリキュラム改正を行った。新カリキュラムが軌道にのったことで、基礎的な知識・技能の習得の度合やプレゼン能力などが向上してきた。

・史学科独自の「教職実践講座」を開催し、教職を目指す学生の支援に努めた。また、3 回生対象の学科独自のキャリアガイダンスを開催した。

［教育学科］

・専門性を強化し、教員採用試験等に合格できる力を身に付けるように授業改善、カリキュラム改革を行い、大きな成果を上げることができた。

・英語力の向上を図る体制が整備され、義務教育コースを中心に様々な取り組みがスタートした。海外短期留学について、夏期ハワイ大学英語研修（1 ヶ月）に参加した意見交換を行った。海外、国内を含め、多くの学生が参加し、参加率は上昇した。

・教育の ICT に対応し、タブレット端末を用いて、小学校で導入されているデジタル教科書や授業支援ツールの活用やプログラミング教育の演習を実施した。第 2 模擬授業教室にタブレット（iPad）40 台と周辺機器を導入し学生の ICT 活用に関わる実践的指導力の向上を図る環境を整え、各ゼミや各授業においても ICT 機器や教材の活用を進めてきた。

［家政学科］

・研究室や履修領域毎に実施していた卒業研究の発表を、学科全体の卒業研究発表会に切り替えたことで、教員と学生ともに研究成果を共有できるようになった。また 3 回生の参加も義務付け、4 回生からの卒論研究に対する十分な動機づけとなった。

・課題解決型の授業を推進することにより、自ずと連携先が増えることとなった。既存の連携先であっても新たな取り組みが増えたケースもみられた。2021 年度生活プロジェクト演習では SDGs をテーマにして学内で演習を実施した。演習内容をプロジェクトマネジメント協会主催日本フォーラム 2022 で発表し、パネルディスカッションを実施した。また 2023 年 MORESCO 社との連携授業を実施した。

［管理栄養士養成課程］

・新カリキュラムの管理栄養士論では、2 施設から外部講師を招聘するとともに、学科教員の講義を通して、1 年生に管理栄養士の社会的役割を意識付けることができた。

・管理栄養士の専門性強化に向けて 2022 年度から新カリキュラムを導入した。効果的に導入して行くための留意点、および、更なる改正点を検討した。今後新カリキュラムを実施しながら点検をして、必要があれば修正しより良いカリキュラムとして定着させたい。

・全学年で学力確認試験を実施し、国家試験全員受験、全員合格に向け、1 年次から国試対策をスタートしている。

［社会福祉学科］

・23 年度の社会福祉士の国家試験の合格率は過去最高の 83.3%となり、精神保健福祉士、介護福祉士の合格率は 100%を達成した。

・「基礎演習」において夏季休暇中に社会福祉施設へのボランティア活動を課題として、レポート作成し後期の授業でゼミごとに報告し学びを共有した。また、夏季休暇中には民生委員・児童委員活動の体験型インターンシップにも多くの学生が自主的に参加した。後期には神戸マラソンのボランティアにも主体的に参加する学生が多く、神戸マラソン前には地域のサービスラーニングを行うなど計画以上の体験ができた。

・入学式後の保証人説明会は、ここ数年で定着してきており、保証人の関心は高い水準を保っている。新型コロナのために Zoom でも実施したことで、遠方の保証人も参加しやすくなったと思われる。これからも対面と Zoom のハイブリッドで、また、全体会と個別相談の時間を設けるようにしていく。

［健康スポーツ栄養学科］

・2022 年、2023 年度の 2 年間をかけて科目再編を行い、栄養士養成課程の専門科目の中にもスポーツ栄養学およびスポーツ分野の専門性強化につながる科目を配置することができた。

・コロナ禍を通して地域活動ができない時期があったが、例年入学生の約 9 割が受講し、2023 年からは神戸市中央区や各種スポーツ団体と連携して、ほぼ全員が 9 回以上のボランティア活動を行なっている。

・2020 年度に中高の保健体育教諭免許課程を開設し、2023 年度の第 1 期卒業生は、1 名が本採用、2 名が講師として勤務した。

・課題解決型授業を取り入れた科目は、2023 年に示した 1～4 回生までの計 23 科目であり、当初計画を上回る成果を得た。

［看護学科］

・DP と看護学コアコンピテンシーに対応した教育評価アンケートを作成し、毎年度評価を行うことで、教育課題を明確化して授業改善に活かしてきた。担任面接において、教育評価アンケートの結果を用いた個別指導を実施することで、学生自身が自己の成長と課題を見出す助けになっている。

・卒業生のフォローアップ体制として、2022 年度からは看護学部同窓会を設立し、2022 年度 20 名、2023 年度 30 名の参加があり、年々参加者も増加している。教員や同期生と繋がることで早期離職の防止や大学院進学にも繋がっている。

・卒業生の実習機関への就職を推進し、実習施設に就職した学生は、2019 年度約 38%、2020 年度約 32%、2021 年度約 29%、2022 年度約 38%、2023 年度約 44%であり増加傾向にある。就職ガイダンスの際に、実習施設に就職した卒業生や就職内定者が発表する機会を設けていることや、卒業生からのメッセージの掲示等の効果がみられている。

［心理学科］

・1 年次よりパソコン必携化は新入生の入学時に達成した。心理学科専門科目および「情報 A・C」や「教養演習Ⅰ・Ⅱ」といった全学共通教養科目において、78.6%(28 科目中 22 科目）の授業で必携化されたパソコンが利用された。

・新入生の 5 割近くが「地域学習」を受講し，地域の諸機関・団体での活動に参加し，それぞれの活動の特徴や課題を認識することができた。

・「臨床心理センター」を開設し、地域社会のニーズを捉え、こころのケアや健康増進の情報発信として、講演やワークショップなどを行った成果もあり、予約件数や来談者が増加してきている。

［文学研究科］

・大学院担当教員として最低限必要とされる業績数を「5 年間で 3 本程度の論文等」とすることで合意に至っており、2019 年度から 2023 年度の「5 年間で 3 本程度の論文等」があるかどうかを点検したところ、ほぼ全員が要件を満たしているとの報告があった。

・5 年間を通して前期課程・後期課程とも定員を満たした専攻はなく、低調であった。2019 年度は英文学専攻 3 名（うち博論 2)、2020 年度は英文学専攻 1 名（論博)、2022 年度は教育学専攻 1 名の博士の学位授与があったが、2021 年度と 2023 年度は全専攻において提出はなく、散発的に出る程度であることは問題である。
・教員志望者が私立高校に進路を決めたほか、日本史学専攻の修了者はおおむね学芸員や文化財関係に就職しており（嘱託員含む)、後期課程進学者も出るなど、進路決定率という点では安定しているといえる。

［家政学研究科］
・大学院家政学研究科担当教員活動評価簡易版を完成させ、2023 年度末に、大学院家政学研究科担当教員活動評価簡易版を使用した自己評価を教員に依頼した。
・大学院生の就職活動支援のためのワーキンググループを組織して、院生の就職支援活動をキャリアサポートセンターと連携して進め、大学院生からの要望、意見に応えた。
・学部との接続強化のため、ティーチングアシスタントとして、多くの院生が学部授業に参加し、逆に卒論発表会に院生も参加している。大学院進学者数が増加傾向にあるのは、このような交流や進学説明会のためと思われるので、継続して行きたい。大学院志望者のための早期履修制度は、まだ十分に活用されていない。

［健康栄養学研究科］
・毎年ほとんどの大学院生が学会に参加し、発表する機会を得た。
・2022 年度から学部 1 年生の基礎演習の時間に大学院生から研究の魅力を伝える講義を始めた。大学院生が学部生に研究内容を報告することで、学部生の学びの意欲が高まった。
・2019 年度から 2023 年度までの 5 年間、入学定員 100%以上を達成することができた。
・大学院生の就職活動支援のためにキャリアサポートセンターと連携し、支援状況の共有、個別面談を実施し、進路決定率 100%を達成した。

［看護学研究科］
・看護学研究に関連する科目の授業過程の質評価に基づく授業改革を実施し、授業前後のアンケート結果を分析して評価を行った。授業の目的、方法への評価は高いことから授業改善の効果はあったと評価できるが、学生の理解度に合わせた内容や課題の量などの課題が示唆されたことから、引き続き改善に努める。
・2023 年度より教育課程を一部改変し、カリキュラム上の有機的関連を図った。
・学部卒業生の大学院進学について、2022 年度 1 名、2023 年度 1 名、2024 年度は 2 名となったことから、教育の継続性や一貫性を確保する準備も整いつつあると評価される。

［学校教育学専攻］
・入学者に合わせて柔軟な授業展開の実施を教員に依頼し、各教員が実践した。少人数制の指導の利点を生かし、入学者のコミュニケーション力を高めることができた。

・専攻科の今後のあり方について話し合った結果、2022 年度をもって専攻科の発展的廃止が決定した。

［総合生活学科］

・輩出する卒業生の特徴・意欲・実践力をより強化するために、10 分野の学びを精選して再構築を行い、7 分野に変更した。それに伴って科目の統廃合を行った。あわせて、取得できる資格についても精査し、関連科目を削減するなど、見直しを行った。

・編入学については、当初想定していた家政学科・社会福祉学科への編入希望者だけではなく、日本語日本文学科、英語英米文学科や国際教養学科、史学科など他学科への編入学を希望する学生も増えてきた。他大学への編入強化については、編入学説明会への参加を促し、個別指導を行ってきた。その成果として 2020 年には国立大学への編入学者もあり、私立大学についても多岐にわたり、良好な結果を得ている。

・ブライダルプランナー検定試験、二級建築士試験、宅地建物取引士試験、サービス接遇検定試験、簿記検定試験、秘書技能検定試験などの試験に多数合格しており、着実に成果が上がった。

・学科の就職率は 100%となり、被服や食分野、住居関連や情報・ビジネス分野など、各ゼミの専門性を活かした企業先へ就職するなど、その成果が見られた。

［食物栄養学科］

・新年度カレッジアワー、オープンキャンパス、校外実習オリエンテーションでの異学年交流を継続して実施した。特にオープンキャンパスでは、「食物栄養学科ツアー」「在学生トーク」「食育 SAT システムを活用した栄養指導」において 2 年次生が 1 年次生を積極的に指導した事由により 2 年次生 4 名が学生表彰を受賞した（2023 年度）。

・近隣の保育園児を招いて学生が調理指導を行う「栄養学実習Ⅰ」でのキッズキッチンは、コロナ禍により中止となる年度もあったが、その後再開し、継続して実施した。今後も継続的に実施し幼児用給食の専門性を高める授業として内容充実を図っていく予定である。

・学園内編入生への模擬面接指導を継続的に実施。さらに教職員参加のもと、神戸女子大学管理栄養士課程編入生と、編入予定者との交流会を継続して実施し、編入後のフォローやアドバイスを行った。

［幼児教育学科］

・ 保育実践力に関する指標開発に向けて、2020 年度から保育実践力 WG を立ち上げ検討並びに学生への調査を継続実施してきた。特に指標については「履修カルテ」を利用し、保育実践力の到達が可視化しやすい項目となるよう改良した。それに基づき、学生自身が「保育実践力」を意識して学修を進められるようにアンケートも実施した。その年度によって学生の意識も異なるので、今後も丁寧な取組を継続していく必要がある。また、教員間での「保育実践力」について共通理解を深め、それぞれの授業で着実に身に付けられるよう取り組んでいく。

・ 2021 年度から実施している「保育士就職セミナー イン キャンパス」では毎年参画してもらう市町を増やし、現在「明石市」「洲本市」「三木市」「西宮市」に加え、2024 年度は「神戸市

（私立幼稚園連盟）」「姫路市（保育協会）」の参画を増やす予定で計画を進めている。その中で「学生ボランティア」「アルバイト」情報等を伝え、夏季休業を利用して学生の保育現場ボランティアにつながっている。

・ 保育士再就職支援に関する取り組みでは、「科目等履修生」「職業訓練生」に関係なく、同じ保育者を目指すというスタンスで学修が行われており、関係づくりもスムーズである。また、2024年度は「社会人入試」で入学してきた学生もおり、幅広い年齢層の学生が共に学ぶよい環境がある。

【Ｉ－３】教育内容に関する目標を達成するための計画

本学を卒業した学生全員が身につけておくべき能力に関する指標を開発し、教養科目のカリキュラムを精査するとともに、全専任教員が教養科目運営に関わる仕組みを整備する。英語教育については全学で組織的な教育体制を整備する。

（達成状況）

・本学を卒業した学生が全員身に付けておくべき能力で、本学の特長となる資質として、全学共通教育独自のカリキュラムポリシー（CP）を策定した。

・学生が全員身に付けておくべき能力に関する指標を開発することが求められたが、この 5 年間で満足できる状況にはできていない。

・情報教育において、2023 年度から導入した「数理データサイエンス AI 教育プログラム」の授業である「情報 A」において大学全体で履修者数が 686 名、「情報 B」においては大学全体で履修者数が 170 名となり、プログラムは無事に開始されている。

・2019-2022 年度間において、「神戸学」「数学Ⅰ、Ⅱ」「心理学Ⅰ」の大学短大共通科目の設定、英語教育マネジメントおよび情報教育マネジメントの一体化など、教養教育の大学短大一体化の流れを実践した。2024 年度からは短大においても大学同様オープン科目の設定を行う。

【Ｉ－４】教育課程に関する目標を達成するための計画

大学ではナンバリングを利用した履修指導を行い、短大でもナンバリングを導入したうえで学生の体系的な学習を進める。また、学生の学習時間の確保に向け、履修上限単位数を引き下げるとともに、教養科目及び各学科における専門科目の科目数の圧縮をはかる。さらに、GPA を運用するうえでの課題を整理し、学生指導において有効な活用方法を開発する。

（達成状況）

・オリエンテーション時の説明や、HP 上に「ナンバリングについて」を掲載して学生への周知を図った。

・3 つのポリシーについて、毎年カリキュラムとの整合性などを検討する PDCA サイクルの確立をし、カリキュラムの適正について検討を行い、10%以上の科目数・コマ数削減を行った。

・GPA を運用する上の課題である各教員間や学科間でのバラつきについて、「神戸女子大学・神戸女子短期大学における成績評価の平準化への指針」を作成し、教員間・学科間の平準化を目指した。履修指導について各学科で履修制限やゼミの配当等の活用が行われている。

【Ⅰ－５】教育方法に関する目標を達成するための計画

授業アンケートを充実させ、実際に教育方法の改善につながる仕組みを整備する。また FD 活動に全教員が参加する体制を整備し、教育支援ツールの活用等を推進する。教育効果に向け、IR データの収集・分析を進める。

（達成状況）

・各学科・専攻において取り組みに差はあるもののカリキュラム・ポリシー、ディプロマポリシーに照らしてそれぞれの課題に応じた FD 活動が実施されるよう体制を整備した。

・manaba 利用率は、コロナ禍により大幅に増加した。2023 年度【大学】96%、【短大】98%の教員が利用するようになっており、manaba の機能アップに係る学外研修会についての情報提供及び参加を通じて、より有効な活用を目指している。

・ICT 環境の基盤構築においては、講義に利用する教室各所に Wi-Fi 機器を設置し、必携化による学生自身の PC やスマホ・タブレットなどの持ち込み機器での学内 LAN・インターネットの利用を可能にした。また、これに伴うネットワークセキュリティのリスク軽減のためにセキュリティのクラウドサービスを利用することとした。

・IR を活用した教育効果向上については、算出したデータ分析結果の利活用が、学科によって状況がまちまちであり課題が残った。

【Ⅰ－６】国際化に関する目標を達成するための計画

英語圏を中心に派遣留学生及び受入留学生の増加をはかる。派遣留学については、プログラムの内容の検証・改善を行うとともに、資格サポートデスクと連携した英語運用能力の向上、保証人の協力を得られる仕組みの整備を行う。留学生の受入については、提携校の開拓と受入体制の整備を行う。

（達成状況）

・海外大学の学生と通信できる仕組みの整備 5 年間を通して、コロナ禍での様々な大学とのオンライン交流プログラム及び対面での短期交流プログラムを実施できるようになった。

・入学式後に保護者への説明会実施（留学した上級生の体験談）は、対面及びオンラインで、学生及び保証人に実施することができるようになった。

・ハワイ大学日本語パートナー及びオックスブリッジプログラムに加え、カリフォルニア州立ポリテクニック大学ポモナ校政治学部の学生を短期間受入れたことにより、本学の学生が海外の大学の学生と英語を通して交流を行うことができた。

Ⅱ 研究に関する目標を達成するための計画

【Ⅱ－１】研究業績に関する目標を達成するための計画

教員の職位ごとに一定期間で最低限必要な研究業績の基準を設定し、毎年チェックを行う体制を整備する。研究活性化に向け、学外研究費の情報収集と学内への周知を強化する。

（達成状況）

・職位ごとに、1 年間及び 5 年間に最低限必要な業績の基準の設定をめざし、各研究科で満たすべき論文数などの基準は定められた。各専攻で、著書、論文、研究発表等の評価基準が異なり、統一するのは難しい。
・社会貢献分野との連携および学外学術情報の収集・周知については、積極的に取り組まれ、さらに外部資金関連情報を集中的に管理し発信する体制が整えられた。

【Ⅱ－２】学生の研究に関する目標を達成するための計画

学生の研究を活性化するため、大学院生と学部生が交流する機会を増加させるとともに、学会等の情報を提供して参加を促す。また、特別に優れた学部生・短大生の研究・探究活動について表彰制度を整備する。

（達成状況）

・毎年、優秀な卒業論文を選出し、「日本語日本文学科卒業論文梗概集抄」を発行して顕彰した。2023 年度からは、卒業論文優秀者の表彰制度として、学位記授与式後の学科行事で表彰を行った。学術論文としてふさわしいレベルの論文 4 本を「神女大国文」に掲載できた。（日本語日本文学科）
・基礎セミナー、Advanced Seminar などのクラスでは成績優秀者を教員や学生の中で顕彰するなどの制度が整備された。（英語英米文学科）
・卒業論文優秀賞の表彰制度が軌道にのり、4 回生が卒論を作成するにあたってモチベーションを高める役割を果たしている。また、下級生のなかにも、それを意識して卒論にむけて勉強している学生が見受けられる。（史学科）
・学生への学会・研究会等の情報提供と学会参加奨励は 3 回生、4 回生は日本インテリアデザイナー協会の優秀賞の受賞など多くの実績に結びついた。外部の表彰制度への参加及び受賞により、学生のモティベーションアップにつながっている。（家政学科）
・神戸女子大学栄養研究会を開催し学部学生、大学院生及び教員を含めの研究力を高めることに努力してきた。（管理栄養士養成課程）
・学部生が外部の学会で演題を発表することや、本学科教員が主催した研究会あるいは学会の運営に大学院生および学部学生が関わるなど、学生の学会参加は着実に増えている。（健康スポーツ栄養学科）
・大学院進学について、学部オリエンテーションや同窓会、就職説明会を活用して、説明機会を増やし、5 年間で 4 名の卒業生が大学院に入学した。（看護学科）

Ⅲ 社会貢献に関する目標を達成するための計画

【Ⅲ－１】社会貢献に関する目標を達成するための計画

地域や企業・団体の課題解決を目的とした連携活動を、学生の教育効果の充実をはかりつつ、地域連携、公開講座、産学連携、高大連携等事業として毎年複数稼働させる。共同研究、受託研究の推進及び各種学協会の公募型研究への教員の応募を支援する。

（達成状況）

・地域や企業・団体の課題解決を目的とした連携活動を増やし、地域活動に参加した学生も2023 年度には延べ 827 名と飛躍的に増加した。
・2022 年度から学生の自主的な地域活動を支援する「神女サポート」を立ち上げ、毎年 5 組以上の団体が地域の課題解決に取り組んだ。
・PIC に地域連携推進事務室が開室し、両キャンパスの学生が共通で申し込めるシステムを構築したことで、利便性と情報提供力が UP した。結果としてボランティアに参加する学生が飛躍的に増えた。
・2022 年度からは新しい取り組みとして「女性活躍推進講座（30 代・40 代のための私のオーダーメイド“きれい”プラン）」を開催し、女子大学が持つリソースをより具現化できた。

Ⅳ 学生の進路に関する目標を達成するための計画

【Ⅳ－１】　進路支援に関する目標を達成するための計画

学生進路満足度及び卒業生離職率に関する調査を導入し、進路支援の指標化をはかる。1年次から卒業まで途切れのないキャリア支援活動を展開するとともに、学科等とキャリアサポートセンターの連携を強化して丁寧な支援を行う。保証人への情報提供を進め、保証人と協力した進路支援を行う。就職だけでなく進学への支援も強化する。

（達成状況）
・「S－NAVI」を活用して卒業生の「進路決定満足度」調査を実施し、就職先満足度の高い企業との連携及び学内合説参加企業との関係構築を実現してきた。
・基礎学力向上に向けた筆記試験対策講座として、オンデマンド方式による「SPI 対策講座」を実施した。また、オンラインによる SPI 模試を実施した。
・地方教育後援会と本学の後援会で「最新の進路状況と就職環境および保証人の皆様にお願いしたいこと」を主題とする講演と内定学生によるパネルディスカッション（オンデマンド）を継続して実施した。

【Ⅳ－２】　専門就職に関する目標を達成するための計画

各学科の専門性を活かした就職を支援するため、学科等とキャリアサポートセンター・教職支援センターの情報共有を強化する。就職の前提となる資格試験や教員採用試験の合格に向けてキャリア意識の涵養と対策講座等の活用を図る。

（達成状況）
・HP で『私の合格 story』として教員採用試験合格者の体験談を発信するなど、全学年に向けた情報発信を行うことができた。
・卒業生の協力による「夏のミニ教職フェア」「ICT 活用授業ガイダンス」を開催、4 回生からインスタグラムでの情報発信や教職に関する相談等を行ってもらうことにより、2 回生の教職意欲の維持向上に繋げることができた。
・令和 4 年度から「神女教職フェア」を開催し、多くの自治体、教育委員会の参加で連携強化に繋がった。

・ライブラリーコモンズ、東京アカデミーと連携した教採対策講座について、常に内容等を検討しながら、時々の状況に即した講座を実施した。学生がより受講しやすいようオンデマンド形式で実施し、短大生も含め両キャンパス一体で実施することができた。

【Ⅳ－３】優良企業就職に関する目標を達成するための計画

事業規模・内容に加え、離職率等の状況も含めた優良企業に多くの学生が内定を獲得できるための受験支援や業種ごとの特徴を踏まえた試験対策を実施する。基礎学力や情報スキルにつき、対策講座や資格講座の活用を図る。

（達成状況）

・就職先満足度の高い企業との連携及び、学内合説参加企業（本学との関係良好企業）との関係構築を実現した。

【Ⅳ－４】公務員就職に関する目標を達成するための計画

地方の有力な就職先として公務員採用試験の合格を強化する。公務員希望者に対して１年次から意識の涵養をはかり、公務員試験対策講座の受講を勧め、各地域の試験情報、試験内容を提供するとともに、面接対策を実施する。

（達成状況）

・保証人宛に資格講座と各種対策講座の案内を送り、受講促進を行っている。

・公務員の仕事内容や、自治体別、試験対策講座など公務員就職関連のガイダンスを１年間を通して開催した。

【Ⅳ－５】　Ｕターン就職に関する目標を達成するための計画

Ｕターン希望率やＵターン就職率等の調査を実施したうえで、Ｕターン希望者の就職を確実に実現する支援を行う。希望者には、１年次から地方優良企業の情報及びＵターン奨学金制度等の情報を提供する。また、地方公共団体とのＵターン協定を推進するとともに地方優良企業との関係構築を図る。

（達成状況）

・中四国全県とＵターン協定を締結した。

・地方優良企業の学内企業説明会を主にオンラインで実施した。

・地方教育後援会や、オンラインの講演会にＵターン就職卒業生を招聘し、体験談を話していただいた。

・Ｕターン奨学金制度の情報発信を積極的に行った。

Ⅴ 学生支援に関する目標を達成するための計画

【Ⅴ－１】　学生満足度・帰属意識に関する目標を達成するための計画

不満足要因が追究できるよう学生アンケートの内容を精査し、学生満足度及び帰属意識に関する指標を開発する。退学者予備軍の把握が可能な仕組みと関係部署によるフォロー体制を整備する。学生の出身地域別コミュニティによりピアサポートを活性化させる。また、

各クラブの活性化をはかるための魅力あるクラブ育成を検討する。

（達成状況）

・学生生活調査の結果を基に課題を精査し、100 円朝食モーニング周知徹底、ウォーターサーバーの設置、女性用品の配布、食堂のキャッシュレス化検討など順次対応した。

・上級生によるピアサポート制度の活性化のため、各学科で上級生と新入生とつなぐ交流（履修相談、イベント開催等）の機会を設けた。

・学生食堂の慢性的な混雑緩和、食に関する環境の改善（キャンパス間の格差是正）を重点課題として、食堂改善委員会で協議し、週 2 回のキッチンカーの継続による選択肢の確保、及びメニュー・価格の改善、PI に設置したマーベルの販売曜日拡大及び営業時間の等を行った。

・障がい学生支援に係る体制整備について、2018 年度より本格的な取り組みを開始した。2020 年度の基本方針の公表、ガイドラインの制定を受け、障がい学生支援調整会議の定期開催、入学前調整会議を開始した。2022 年度より教職員を対象とする学生支援研修会を開催し、教職員の正しい理解と対応等意識改革を促進した。2024 年 4 月の学生支援センター開設に向けた取り組みとして、コーディネーターの採用など、学外の関係者とも連携を図ることで、円滑な運営開始のための準備・調整の枠組みを整備した。

【Ｖ－２】　経済的支援に関する目標を達成するための計画

各種団体等の奨学金制度の情報収集と学生への周知を強化するとともに公営住宅、民間住宅等の空家対策と連携して低家賃住宅確保の方法を検討する。

（達成状況）

・公共団体による奨学金制度の継続的な情報収集・発信（KISS 配信・説明会）・管理を行うとともに学科（学科主任・学生支援委員・クラス担任等）と連携し、必要とする学生への情報提供に努め、必要に応じた申請支援を行った。

・福祉や看護などの資格取得と就職支援に関する奨学金の継続的な情報収集と、学科と連携のうえ、学生に対し、必要の情報を提供できる体制を整備した。それにより、学生及び関係教職員の各種制度への理解を深めることができ、2023 年度は、当初目標の 50 件を超え 108 件の奨学金を学生につなぐことができた。

Ⅵ 施設・設備に関する目標を達成するための計画

【Ⅵ－１】施設・設備に関する目標を達成するための計画

施設・設備及び教育環境に関する学生満足度指標を開発し、学生のニーズに配慮した整備計画を策定するとともに時代の変化に対応した情報教育機器の整備と定期的な更新をはかり、施設・設備及び教育環境の改善をはかる。学生の大学生活充実に資するスペースの改修を進める。

（達成状況）

・学内で不足する休息スペースを新たに作るため、須磨キャンパス A 館ラウンジの改修工事は、学生を交えての意見・提案を集約した改修プレゼンを実施した。参加した学生の投票により施工業者を選定し、最終的な改修案を決定した。プレゼンに参加した学生も自身の意見、提案が反映された改修が実現されたことで充実感も得られ、非常に貴重な体験であり、今後に役立てる事ができると多くの感想が寄せられた。
・須磨キャンパス食堂 2 階の改修工事により、新たな休息スペースとしての理想的な空間へと変貌した。開放時間も延長し、学生の利用は大幅に増加、非常に好評となっている。
・PI キャンパスでは、新たに B 館食堂 2 階にマーベルの改修工事を行った。有名コーヒーチェーンのコーヒーマシーン導入と昼食用パン販売で、学生の環境改善整備ができた。
・廊下・非常階段などの共用部は人感センサーによる間欠照明に更新して省エネを図り、案内サインの更新を実施したことで来学者や学生が分かりやすくなった。

Ⅶ 入試広報に関する目標を達成するための計画

【Ⅶ－１】入試広報に関する目標を達成するための計画

各学科との連携を強化し、就職・資格取得に強い本学の特長に関する積極的な広報活動を実施する。質の高い情報提供や出前授業による高校との関係強化をはかるとともに、地域や高校の特徴に応じたより戦略的な広報活動を展開する。高大接続改革に対応した入試制度の改革を進め、多面的な評価により意欲・能力ともに高い学生の獲得を実現する。

（達成状況）

・学科の取り組みは、大学案内のほかにウェブマガジンの"Shinjo Mag"や、Instagram 等の SNS を通じて広報、発信できるようになった。また学科独自の SNS 開設や HP 記事掲載をするなど、情報発信という点においては活発になったと思われる。
・活躍する卒業生、有名企業に内定した 4 回生をインタビューしたキャリアページ「CareerPalette」を HP に立ち上げた。学科やキャリアサポートセンターの協力のもと既に 67 名の情報をアップしており、社会に通用する人材育成イメージを引き続き醸成していく。
・模擬授業・高校内ガイダン及びキャンパス見学の受入れを積極的に行い、高校生との接触の機会の増加に努めた。
・高大連携ができている高校を対象とした「連携校入試」制度の実施に向けて整備に努めたい。

Ⅷ 幼稚園に関する目標を達成するための計画

【Ⅷ－１】　幼稚園に関する目標を達成するための計画

地域の児童数の将来予測や他園の運営状況を分析し、定員確保に向けて運営形態、運営方法の見直しを図る。無償化を含めた就学前教育制度の変革に対応していく。

（達成状況）

・2021 年 4 月に認定こども園へ移行し、概ね順調に運営している。その後、2022 年度は、2・3 号児定員数 10 名に加え、10 名の増加となった。園児数はこの 5 年間、ほぼ定員を確保してきた。

・ほぼ毎日、完全給食を提供した。内容も園児が食を楽しめるように、また、食材に関心がもてるよう、様々な工夫をしている。給食参観を実施することで、保護者に食育の大切さを伝えることができた。
・今後は少子化に伴い、減少することが予測されるため、定員数の再検討を行うとともに、附属園としてのよさが発揮できる取組を続けていき、園児数を確保していきたい。

Ⅸ 組織に関する目標を達成するための計画

【Ⅸ－１】定員充足に関する目標を達成するための計画

社会が必要とする人材及び受験生が志望する分野の動向を把握し、常時各学科等の教育内容の見直しや新学科等の設置を含め学科の在り方等を検討していく。定員未充足の組織については、未充足の期間によって改組や廃止を進める基準を整備し、早期の改善につなげる仕組みを構築する。

（達成状況）

・未充足状態を解消するための対策基準を設定したが、それに基づく対策実施と周知については、限定的なものにとどまった。
・2022 年度心理学部開設については、受験生の志望する分野とのマッチングが奏功し、開設以来定員充足をしている。しかし一方で 2022 年度には、短期大学だけでなく、看護・心理学科を除く全ての学科が入学定員未充足となったことから、学園全体で志願者回復プロジェクトを立ち上げ、具体的な対応策の検討を図り、学科別の情報発信ツールの活用を促進したが、効果が出ているとは言い難い状況である。
・短期大学については、2021 年度の定員減より、再度 2024 年度に適正な入学定員を示し、文部科学省への手続きを行った。長期履修制度、幼児教育学科における職業訓練制度の導入と短大独自の広報活動（短大教員による高校訪問、チラシ作成の依頼と配布、HP や SNS への記事掲載、同窓会への働きかけ等）を実施した。
・大学については、2025 年度からの教育学部開設について手続きを進めた。

【Ⅸ－２】　大学・短大一体的運用に関する目標を達成するための計画

法令上の制約等を踏まえたうえで、教学部門の組織や委員会等について統合もしくは合同設置等を行うことにより、効率的かつ効果的な運用が行えるよう体制整備を図る。

（達成状況）

・教学組織及び委員会の統廃合及び関係規程等の整備は予定どおり完了した。
・各種会議資料の電子化は、部局長等会議は完全実施済、その他所掌会議も順次実施し、各学部教授会についても令和 6 年前期中に完全実施すべく準備を進めている。
・大学・短大の教学組織も一体化され、事務組織との連携強化を図り、より効率的な運営が進めた。

X 財政に関する目標を達成するための計画

【X－１】健全財政に関する目標を達成するための計画

寄付金や資産運用収入の増加をはかるとともに、管理経費や人件費等の見直しを行い、財務体質の強化を進める。人件費については、将来に亘り運営が可能な人員配置及び各種制度の変更を検討する。 各学科の科目数・コマ数の適正化をはかり大学・短大全体で効果的な教育課程を整備する。

（達成状況）

・2023 年度より職員人事制度改正を実施した。管理職ポストの削減に伴い、職位と資格(等級)を分離することに改めた。

・2020 年 4 月に改正旅費制度を導入し、旅費制度は十分に定着した。教員への Web 旅費システムについては、2021 年 4 月に導入し、出張手続きをシステム化したことにより業務の省力化を図った。

・資産運用規定及び資産運用基準の見直しを行った。安全性を重視し、長期的に安定した収益を目指し社債（劣後債）購入を行い、累積で「61 百万円」の収益が得られた。

・2020 年 4 月より改正就業規則に基づき助教以上の教員を対象に裁量労働制を導入した。

・教養科目の開講数の効率化を目指して、履修者数を指標とした授業不開講及び廃止科目制定のルールを 2021 年度から開始した。